

糖尿病内分泌内科

糖尿病内分泌内科は「糖尿病およびあらゆる内分泌疾患に対して、チーム医療による総合的な診断・治療にあたり、合併症の発症・進行を防ぐ」ことを目標にした診療を行っている。糖尿病診療では病態の精査、合併症の評価、適切な治療方針の決定、メディカルスタッフ皆が参加するチームでおこなう療養指導・教育とともに、病診連携に力を入れた診療を推進している。内分泌疾患では、的確な精査・診断による治療方針にもとづき、かつできる限り患者に寄り添ったフォローをかかりつけ医療機関とともにすすめる診療を目指している。内分泌疾患や糖尿病合併症の診療には、専門各診療科との協力が不可欠である中、当院には高度な専門性を有する診療科が揃っており、その強い力と連携して、精査・診断と治療から近隣医療機関と協力したフォローまで、完結した医療が提供できるよう努めている。2022 年度に診療にあたったのは医師 8 名（および外来非常勤医師 2 名）である。前年度（2021 年度）の 9 月および 12 月に高橋尚子医師、綾野志保副部長（現在大阪府済生会野江病院糖尿病・内分泌内科）が、2022 年 3 月に瀬野陽平医師、酒井麻里子医師が退職した。2022 年 4 月からはレジデント医師として田辺悦子医師、塚口諒医師が診療に加わった。そして 2022 年 10 月より当院理事長として着任した稲垣暢也医師（京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学教授を 2022 年 9 月に退官）が 2022 年度から当院診療を行っている。また、2022 年 12 月～2023 年 1 月にレジデント医師である司馬熙医師が当科診療に加わった。2023 年 3 月には田辺悦子医師が退職、同 4 月からは泉諒太副部長が京都大学糖尿病・内分泌・栄養内科より当院北野カデットプログラム 5 期生として着任し、レジデント医師として酒井麻里子医師（再度着任）、松城真里医師が診療に加わっている。研究活動では、当院の多様で豊富な臨床経験を活かし、診療に直結すると同時に独創的な見地を目指した様々な課題に積極的に取り組んでおり、内分泌疾患、代謝異常にかかる生化学的、分子生物学的機序を国際学術誌に報告するなど、医学・医療の進歩に寄与する成果を発信している。

a. 体制

濱崎 暁洋（はまさき あきひろ） 主任部長

専門 : 糖尿病・内分泌疾患

本庶 祥子（ほんじょ さちこ） 副部長（栄養部部長）

専門 : 糖尿病・内分泌疾患

洪江 公尊（しぶえ きみたか） 副部長

専門 : 糖尿病・内分泌疾患

長谷部 雅士（はせべ まさし） レジデント

専門 : 糖尿病・内分泌疾患

田辺 悦子（たなべ えつこ） レジデント
専門 ：糖尿病・内分泌疾患

塚口 諒（つかぐち りょう） レジデント
専門 ：糖尿病・内分泌疾患

稲垣 暢也（いながき のぶや） 理事長
専門 ：糖尿病・内分泌疾患
(2022 年 10 月着任)

司馬 熙（しば ひろし） レジデント
(2022 年 12 月～2023 年 1 月ローテート)

泉 諒太（いずみ りょうた） 副部長
専門 ：糖尿病・内分泌疾患
(2023 年 4 月入職)

酒井 麻里子（さかい まりこ） レジデント
専門 ：糖尿病・内分泌疾患
(2023 年 4 月入職)

松城 真里（まつしろ まり） レジデント
専門 ：糖尿病・内分泌疾患
(2023 年 4 月入職)

b. 診療実績

	年間入院患者数
糖尿病	180
下垂体疾患	38
副腎疾患	28
甲状腺・副甲状腺疾患およびその他	66

c. 学会・講演・著作その他の研究活動

【学会】

- 1 本庶祥子、越井由佳子、立野裕子、東坂秀作、境内大和、瀬野陽平、岩崎順博、岩崎可南子、綾野志保、濱崎暁洋
インスリン自己注射手技の再教育は血糖コントロールを改善し、適切な注射手技の維持・改善に有効である
第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022/5/12-14 (神戸)
- 2 綾野志保、博多恵美、古河てまり、増田有美、安藤ますみ、酒井麻里子、長谷部雅士、瀬野陽平、渋谷公尊、本庶祥子、濱崎暁洋
当院におけるインスリン療法を要した妊娠糖尿病(GDM)患者の背景因子と周産期予後についての検討
第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022/5/12-14 (神戸)
- 3 濱崎暁洋、越井由佳子、本庶祥子、綾野志保、渋谷公尊、瀬野陽平、長谷部雅士、酒井麻里子、竹内麻衣、上田覚、角田晃啓
85 歳に達した高齢者糖尿病患者の予後と予後因子の検討
第 65 回日本糖尿病学会年次学術集会 2022/5/12-14 (神戸)
- 4 長谷部雅士、岩崎順博、境内大和、酒井麻里子、瀬野陽平、岩崎可南子、綾野志保、渋谷公尊、本庶祥子、濱崎暁洋
1 型糖尿病発症時に一過性の高シトステロール血症を示した ABCG5 ヘテロ接合性変異保有者の 1 例
第 95 回日本内分泌学会学術総会 2022/6/2-4 (別府)
- 5 酒井麻里子、長谷部雅士、瀬野陽平、渋谷公尊、綾野志保、本庶祥子、濱崎暁洋
糖尿病教育入院を機に臨床診断し、冠動脈疾患(CAD)の治療を施行し得た家族性高コレステロール血症(FH)ヘテロ接合体の一例
第 95 回日本内分泌学会学術総会 2022/6/2-4 (別府)
- 6 酒井麻里子、渋谷公尊、長谷部雅士、本庶祥子、濱崎暁洋
免疫チェックポイント阻害薬(ICI)投与に関連した 1 型糖尿病発症の現状と課題
第 37 回日本糖尿病合併症学会・第 28 回日本糖尿病眼学会総会 2022/10/21-22 (京都)
- 7 本庶祥子、田辺悦子、塚口諒、長谷部雅士、渋谷公尊、濱崎暁洋
原発性アルドステロン症の診断と治療開始後の長期経過の検討
第 32 回臨床内分泌代謝 Update 2022/11/11-12 (東京)
- 8 塚口 諒、山内一郎、植田洋平、藤井寿人、田浦大輔、濱崎暁洋、稲垣暢也
重複腎動脈の関与が示唆された高レニン性高血圧症の 1 例
第 32 回臨床内分泌代謝 Update 2022/11/11-12 (東京)
- 9 田辺悦子、渋谷公尊、塚口諒、長谷部雅士、本庶祥子、濱崎暁洋
妊娠悪阻を契機に原発性副甲状腺機能亢進症と診断され、妊娠早期に異所性副甲状腺腫摘出術

を行った 1 例

第 23 回日本内分泌学会近畿支部学術集会 2022/11/26 (奈良)

- 10 酒井麻里子、長谷部雅士、瀬野陽平、渋谷公尊、綾野志保、本庶祥子、濱崎暁洋
日常内科診療で見出される家族性高コレステロール血症(FH)
医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2022 2022/4/16 (京都)
- 11 濱崎暁洋
糖尿病の病態に応じた GLP-1 受容体作動薬の適応とその選択
Web 講演会 2022/6/8 (大阪(Web))
- 12 渋谷公尊
免疫チェックポイント阻害剤による劇症 1 型糖尿病の一症例
糖尿病合併症・併存症を考える会 2022/6/9 (Web)
- 13 本庶祥子
新しいガイドラインをふまえた 原発性アルドステロン症の地域連携診療
地域連携 Web セミナー 2022/6/17 (大阪(Web))
- 14 濱崎暁洋
日常診療の視点からみた副甲状腺疾患
第 36 回大阪糖尿病・内分泌倶楽部 2022/9/22 (大阪)
- 15 酒井麻里子
免疫チェックポイント阻害薬(ICI)投与に関連した 1 型糖尿病発症の現状と診療の課題
Diabetes Seminar in HANSHIN 2022/10/14 (大阪)
- 16 塚口諒
COVID-19 流行下における糖尿病増悪因子～外来継続診療からの解析～
第 32 回大阪 B. B. DM フォーラム 2022/10/15 (大阪)
- 17 田村汐里、渋谷公尊、酒井麻里子、田辺悦子、塚口諒、長谷部雅士、本庶祥子、濱崎暁洋、稲垣暢也
免疫チェックポイント阻害薬投与に関連した 1 型糖尿病を発症した多臓器転移を有する進行胃癌の症例
第 16 回糖尿病臨床フォーラム 2023/2/25 (大阪)
- 18 濱崎暁洋
教育講演 糖尿病臨床の四半世紀～診療の中で変わらないこと～
第 16 回糖尿病臨床フォーラム 2023/2/25 (大阪)
- 19 塚口諒、本庶祥子、田辺悦子、長谷部雅士、渋谷公尊、濱崎暁洋、稲垣暢也
卵巣過剰刺激症候群(OHSS)を発症し FSH 産生腺腫の診断に至った下垂体腫瘍の 1 例
第 101 回京都内分泌同好会 2023/3/18 (京都(Web))
- 20 濱崎暁洋
糖尿病診療で膵癌が見つかるとき
糖尿病と膵癌を考える会 2023/3/25 (大阪)
- 21 濱崎暁洋

【論文】

(原著論文)

- 1 Yoshiji S#, Hasebe M#, Iwasaki Y, Shibue K, Keidai Y, Seno Y, Iwasaki K, Honjo S, Fujikawa J, Hamasaki A*.
Exploring a Suitable Marker of Glycemic Response to Dulaglutide in Patients with Type 2 Diabetes: A Retrospective Study.
Diabetes Ther. 2022 Apr;13(4):733-746. 2022 (査読有り)
- 2 Honjo S#*, Koshii Y#, ..., Keidai Y, Seno Y, Iwasaki Y, Iwasaki K, Ayano S, Hamasaki A.
Exploratory study on glycemic control improvement for patients with diabetes mellitus by appropriate re-education on insulin self-injection technique during COVID-19 pandemic.
Diabetes Res Clin Pract. 2023 Jan;195:110192. 2023 (査読有り)
- 3 Hasebe M#, Yoshiji S#, Keidai Y#, ..., Hamasaki A, Inagaki N*.
Efficacy of antihyperglycemic therapies on cardiovascular and heart failure outcomes: an updated meta-analysis and meta-regression analysis of 35 randomized cardiovascular outcome trials.
Cardiovasc Diabetol. 2023 Mar 19;22(1):62. 2023 (査読有り)

(症例報告)

- 1 Shibue K*, Yamakawa M, Nishida N, Hamasaki A.
Resolution of Visual Field Defect in Macroprolactinoma After Treatment With Cabergoline.
Cureus. 2022 May 31;14(5):e25548. 2022 (査読有り)
- 2 Hasebe M*, Shibue K, Honjo S, Hamasaki A.
Hypoglycemic encephalopathy. *QJM.* QJM. 2022 Jul 9;115(7):478-479. 2022 (査読有り)
- 3 Hasebe M*, Shibue K, Honjo S, Hamasaki A. Ring sign' of pheochromocytoma. *QJM.* in press 2023 (査読有り)
- 4 Hasebe M#, Iwasaki Y#, Keidai Y, Iwasaki K, Honjo S, Hamasaki A*.
Plant sterol hyperabsorption caused by uncontrolled diabetes in a patient with a heterozygous ABCG5 variant. *J Diabetes Investig.*
J Diabetes Investig. 2022 Nov;13(11):1934-1938. 2022 (査読有り)
- 5 Hasebe M*, Shibue K, Honjo S, Hamasaki A.
Spontaneous regression of lymphocytic infundibulo-neurohypophysitis.
JCEM Case Reports. in press 2023 (査読有り)
- 6 京面ももこ, 本庶祥子, 濱崎暁洋
間歇スキャン式持続血糖測定 (isCGM) を併用した継続的な栄養指導が周産期の血糖管理に有効だ

った糖原病 Ia 型合併妊娠の一例

日本病態栄養学会誌 日本病態栄養学会誌 25(2): 199-209 2022 (査読有り)

【研究】

- 1 内分泌代謝疾患の新規バイオマーカーの探索
(瀬野陽平、長谷部雅士、酒井麻里子、渋江公尊、本庶祥子、濱崎暁洋、阿部 恵、吉治智志、岩崎順博、岩崎可南子、境内大和、綾野志保)
- 2 遺伝性内分泌代謝疾患診断のための遺伝子解析研究
(瀬野陽平、長谷部雅士、酒井麻里子、渋江公尊、本庶祥子、濱崎暁洋、阿部 恵、吉治智志、岩崎順博、岩崎可南子、境内大和、綾野志保)
- 3 代謝内分泌疾患の病態生理解明と治療効果検討のための観察研究
(瀬野陽平、長谷部雅士、酒井麻里子、渋江公尊、本庶祥子、濱崎暁洋、阿部 恵、吉治智志、岩崎順博、岩崎可南子、境内大和、綾野志保)
- 4 GH 産生下垂体腺腫における術後再発および薬物療法有効性予測因子の検討
(京都大学と共同研究) (本庶祥子、濱崎暁洋、岩崎順博、岩崎可南子)
- 5 食事療法の計画・実行支援 AI プログラムにより PHR・EHR を糖尿病重症化予防医療に活用する仕組みの研究開発
(京都大学等との共同研究) AMED 課題研究
- 6 糖尿病の個別化栄養治療を支援する新医療機器プログラムの開発・事業化
(京都大学等との共同研究) AMED 課題研究
- 7 インスリン自己注射手技の適切な再教育による血糖コントロール改善の探索的調査
(日本ベクトンディッキンソン社と共同研究)
(越井由佳子、竹内麻衣、本庶祥子、境内大和、瀬野陽平、濱崎暁洋、岩崎可南子、岩崎順博、綾野志保)
- 8 妊娠時耐糖能異常症例に対する介入効果の研究
(綾野志保、博多恵美、増田有美、古河てまり)
- 9 1 型糖尿病患者における低血糖応答性グルカゴン分泌機構に関する研究
(渋江公尊)
- 10 アミノ酸投与によるミトコンドリア機能改善に関する研究 (渋江公尊)
- 11 インスリンシグナルを介したグルカゴン分泌制御についての研究 (渋江公尊)
- 12 糖尿病と癌の発症についての後方視的研究 (本庶祥子)
- 13 原発性アルドステロン症の診断および治療経過に関する研究 (本庶祥子、濱崎暁洋)
- 14 糖尿病患者における膵癌発生の前向き観察研究 (消化器内科との共同研究) (本庶祥子、濱崎暁洋)
- 15 高齢者糖尿病患者におけるサルコペニアの評価と介入に関する研究 (本庶祥子、角田晃啓)
- 16 高齢者の生活自立に資する身体機能維持に必要な栄養素代謝環境の病態生理学的解明 (濱崎暁

洋、角田晃啓、本庶祥子)

- 17 ソマトスタチンアナログ製剤投与時の膵・腸管内分泌修飾と耐糖能異常の研究 (阿部 恵、本庶祥子、濱崎暁洋)
- 18 全科型糖尿病診療サポートチームの多面的効果に関する検討 (竹内麻衣)
- 19 インスリン分泌と感受性、インクレチン作用の定量的評価 (濱崎暁洋)
- 20 日常診療環境において持続的運用が可能なデータベースとその統合についての検討 (濱崎暁洋)
- 21 医療データからの診療行為の時系列的再構築に関する研究 (京都大学と共同研究) (濱崎暁洋)
- 22 腸内環境と内分泌・代謝修飾連関の解明に関する研究 (濱崎暁洋)
- 23 膵α細胞の IRS1 制御性オートファジーにて調節されるグルカゴン分泌調節機構の探索 (学術研究助成基金助成金 2022-2024 年度 若手研究) (渋谷公尊)
- 24 糖尿病の個別化栄養治療を支援する新医療機器プログラムの開発・事業化 (濱崎 暁洋)
AMED 課題研究